



LDAP 認証の設定

Cisco Unified CallManager Release 5.0 以降では、ディレクトリの設定を次の 3 つの関連ウィンドウで行います。

- [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリとの同期化が [Cisco Unified CallManager の管理] の [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合のみです。

LDAP 認証の情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [LDAP 認証の情報の更新 \(P.14-2\)](#)
- [LDAP 認証の設定値 \(P.14-3\)](#)

LDAP 認証の情報の更新

LDAP 認証の情報を更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウにある [LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスの設定によって、管理者が認証の設定値を変更できるかどうかが決まります。LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合、管理者は、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値を変更することができません。LDAP の同期化の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の P.20-1 の「ディレクトリの概要」を参照してください。

逆に、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値を管理者が変更できるようにするには、LDAP サーバとの同期化を使用不可にする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [システム] > [LDAP] > [LDAP 認証] の順に選択します。
 - ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 14-1 を参照)。
 - ステップ 3** [保存] をクリックして、変更内容を保存します。
-

追加情報

P.14-4 の「関連項目」を参照してください。

LDAP 認証の設定値

表 14-1 では、LDAP 認証の設定値について説明します。関連する手順については、P.14-4 の「関連項目」を参照してください。

表 14-1 LDAP 認証の設定値







フィールド	説明
[エンドユーザのための LDAP 認証 (LDAP Authentication for End Users)]	
[エンドユーザに LDAP 認証を使用 (Use LDAP Authentication for End Users)]	LDAP ディレクトリとの認証をエンド ユーザに要求するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフのままにすると、認証はデータベースに対して実行されます。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで LDAP 同期化を使用可能にした場合のみです。
[LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)]	LDAP Manager のユーザ ID を入力します。このユーザは、該当する LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザです。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
[LDAP パスワード (LDAP Password)]	LDAP Manager のパスワードを入力します。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
[パスワードの確認 (Confirm Password)]	[LDAP パスワード (LDAP Password)] フィールドに入力したパスワードをもう一度入力します。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
[LDAP ユーザ検索ベース (LDAP User Search Base)]	ユーザ検索ベースを入力します。Cisco Unified CallManager は、ユーザをこのベースで検索します。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
[LDAP サーバ情報 (LDAP Server Information)]	
[サーバのホスト名あるいは IP アドレス (Host Name or IP Address for Server)]	企業ディレクトリをインストールした場所のホスト名または IP アドレスを入力します。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。

表 14-1 LDAP 認証の設定値 (続き)

フィールド	説明
[LDAP ポート (LDAP Port)]	<p>企業ディレクトリが LDAP 要求を受信するポートの番号を入力します。</p> <p>Microsoft Active Directory および Netscape Directory のデフォルト LDAP ポートは、389 です。Secure Sockets Layer (SSL) のデフォルト LDAP ポートは、636 です。</p> <p></p> <p>(注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>
[SSL を使用 (Use SSL)]	<p>セキュリティのために SSL 暗号化を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p></p> <p>(注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>
[他の冗長 LDAP サーバを追加]	<p>行を追加して、この他のサーバに関する情報を入力できるようにするには、このボタンをクリックします。</p> <p></p> <p>(注) このボタンにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>

関連項目

- [LDAP 認証の設定 \(P.14-1\)](#)
- [LDAP 認証の情報の更新 \(P.14-2\)](#)
- [LDAP 認証の設定値 \(P.14-3\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- [LDAP システムの設定 \(P.12-1\)](#)
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- [アプリケーション ユーザの設定 \(P.86-1\)](#)
- [エンド ユーザの設定 \(P.87-1\)](#)